



市民フロンティア

自らの活動を通じて、誰もが尊重され支えあう地域社会の実現をめざします。

CS 神戸は、**自立と共生**を目指し、より良い社会のために主体的に活動する人々をサポートするとともに、



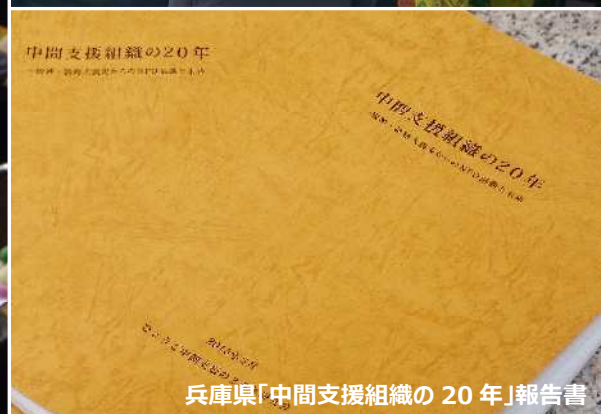
2015 年 6 月 25 日発行 **通巻 76 号**



生活・介護支援サポーター養成研修



生きがい活動ステーション 交流サロン



兵庫県「中間支援組織の20年」報告書

『2014 年度をふりかえり、2015 年度を展望する』 理事長 中村順子

2014 年度は実り多く、設立以来 18 年にわたる成果を受け継ぎ、次へとつなぐ道筋が明確に見えた年でした。その道筋とは、少子高齢化・希薄化するコミュニティ・格差社会といった厳しい時代の変化に対応するため、活気ある元気な高齢者を中心に、前向きな助けあい活動に転換し、最後まで暮らせる地域社会を住民主体で構築する方向です。中間支援組織が、誰のためにどのような事業を展開することが、今日の時代が抱える問題解決となるのか、常に問いかけながら歩んできましたが、これらを 1 冊の本に纏め上げる準備を始めたところです。ご支援いただいた皆さまに心からお礼申し上げます。

2014 年度新規にスタートした 3 事業である、神戸いきいき勤労財団との「生きがい活動ステーション」、介護予防日常生活支援神戸研究会の蓄積が結実した「生活支援サポーター養成講座」、兵庫県内における中間支援組織の取りまとめ調査「中間支援組織の 20 年」等の事業を、従来の 18 事業と重ねて実施することで新たなつながりが見えてきました。地域活動における入り口としての相談・講座から仲間づくり、組織づくり、新しい事業創出、評価に至るリアルな PDCA（Plan・Do・Check・Action）サイクルです。当年度その成果は、新規相談者 948 人、講座受講生 2604 人（85 講座）のうち、新規活動者が 730 人生まれ、48 団体が立ち上がっていました。これは、総合広域講座とテーマ別小規模講座の組み合わせによる相互作用や、要望の高い居場所（通い場）・介護予防活動・生活支援サービスの新しい活動の開発に努めたことが推進力となりました。もちろん、行政や他の NPO・社会福祉協議会等さらには企業とも協働して成し得たもので、協働がより効果的な手法として確認できたことも大きな成果です。提言活動では、報告書を通してサポーター養成講座、ハンズオン事業、CSR、中間支援組織 20 年、生きがい活動ステーションやまちづくりスポット神戸で事業活動を通して様々な提案をし、新たな価値の創造につなげました。

2015 年度はこれらの流れを確かなものにすべく次の 3 つの重点目標を定めました。

- ① CS 神戸が 20 年で得た教訓を発信するための書籍を出版し、「自立と共生」の現実化を明らかにする。
- ② 地域住民が主体となるようなオリジナル研修の開発と事業実施。
- ③ 学びや相談から活動に至るプロセスのパッケージ化。

2016 年 10 月に CS 神戸は 20 周年を迎えます。今後の 10 年が展望できるよう局面の年度を総力で取り組んでまいります。

2015 年度理事会・総会報告

2015 年度 理事会・総会を開催しました



活発な議論がおこなわれました

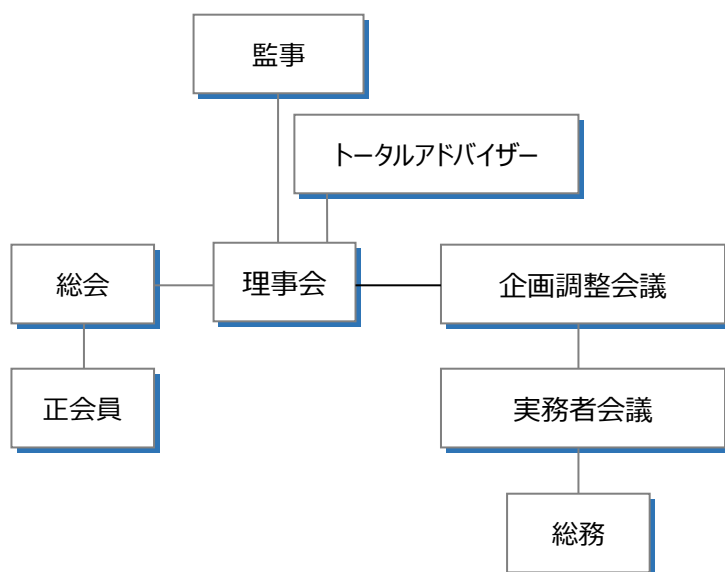
2015 年度通常総会が 5 月 24 日（日）午前 10 時 15 分～12 時まで、CS 神戸事務所にて開催されました。総会には、理事 3 名に加えて理事長、副理事長、監事 2 名、トータルアドバイザー（書面にて参加）、正会員 7 名（うち 3 名が書面にて参加）、計 15 名が出席しました。審議の結果、第 1 号議案（2014 年度事業報告および決算）、第 2 号議案（2015 年度事業計画および予算）が可決・承認されました。

役員、会員の皆さまより貴重なご意見をいただく場となり、NPO 法人としての新たな視点の追加や、ミッションの掘り下げについてご提案いただきました。

また、総会に先立ち、2015 年度第 1 回理事会を同日午前 9 時 30 分～10 時まで開催しました。理事 3 名、理事長、副理事長、監事 2 名で総会に提案する諸議案を審議しました。

総会における報告につきましては、3 ページ以降をご覧ください。

【2015 年度（平成 27 年度）組織図】



■ 市民活動支援部

【NPO・CB 支援/就業・ボランティア支援】

1. 生きがいごとサポートセンター神戸東
2. 神戸市 NPO 認証支援事業
3. 全県活性化事業
4. ハンズオン・インターンシップ
5. 市民活動サポート基金/スマイルテッド基金

【研修・講座事業】

6. 社会貢献塾・CB 実践講座
7. 地域 CB 支援事業
8. 視察研修事業

【ネットワーク・調査事業】

9. つなごう神戸運営事業
10. 東日本大震災復興支援

【福祉推進事業】

11. NPO サービスセンター
12. 介護サービス情報の外部評価・公表調査
13. 新地域支援事業

※その他の事業

アテンドクルー、ひろば昼体操、居場所づくり 等

■ 地域活動事業部

1. JR 住吉駅前駐輪場
2. 東灘区民センター小ホール
3. まちスポ神戸運営事業
4. 生きがい活動ステーション

<スタッフ構成>

常勤・準常勤	12 人（男性：6 人、女性：6 人）
非常勤・臨時雇用	19 人（男性：12 人、女性：7 人）
ボランティア	約 100 人

2014 年度事業報告

2014 年度も様々な事業に取り組みました

New Project ～ 3 つの新規事業に取り組みました ～

✓ 新地域支援事業

昨年、神戸市から「介護予防・日常生活 担い手養成講座 モデル事業」を CS 神戸が受託し、企画・運営を担当しました。この研修には年齢 65～69 歳の方が全受講者の 81%をしめしましたが、助けあいの地域づくりのために何かを起こそうとする受講者の強いエネルギーが感じられました。男性の参加者も多く、男性ボランティアの活躍に期待が膨らみます。研修終了時にサポーター活動の意向を調査したアンケートでは、受講者のほとんどが今後も情報提供や案内を希望しており、サポーター活動への関心の高さを表していました。本年度、神戸市全体で実施予定である同様の「介護サポーター養成事業」にこの「モデル事業」の結果が役立ち、神戸市の「健康寿命延伸の取組み」にまた高齢者自らの関心が高まることを願っています。(小林)



新しい“担い手”の活躍に期待!

✓ 生きがい活動ステーション



男性主体の交流サロンも開催し、大盛況!

2014 年 6 月、神戸いきいき勤労財団と協働で「生きがい活動ステーション」を開設しました。場所は神戸市立六甲道勤労市民センター4F のロビーの一角。地域活動の担い手づくりを目的に、相談事業や講座・サロンを実施してきました。そして開設 10 か月間で、情報提供者 8,419 名、講座数合計 23 回（延べ参加者数 202 名）、ボランティア等の活動マッチング 65 件、立ち上げ・事業拡充団体が 4 団体と、一定の成果をあげることができました。

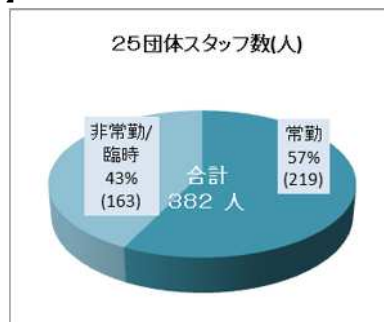
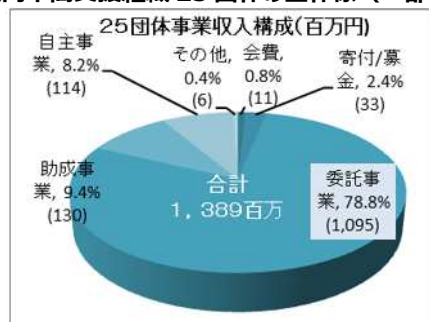
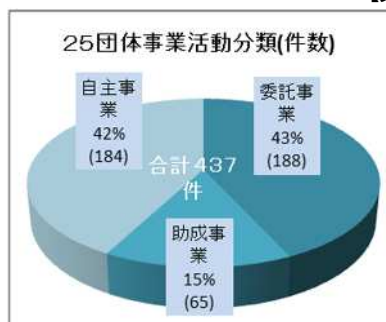
最初から「やってみたい!」という積極派は少数で、何度か顔をあわせているうちに「じゃ、ちょっと試してみようかな」という方がほとんどです。通りすがりや偶然のご縁を大切に、その人の“スイッチ”を探しながら、一人でも多くの地域活動の担い手が生まれるよう、引き続きサポートしていきたいと考えています。(飛田)

✓ 震災 20 年検証事業

阪神・淡路大震災後 20 年間の市民活動の展開を中間支援組織の視点から検証する兵庫県で初めての事業です。被災地内の地域総合型の主要 10 団体を含む県内全域で 26 団体の中間支援団体を調査し、各々の活動の総合的な分析を通してこれまで中間支援組織が果たしてきた役割・影響を分析し報告書の形でまとめました。県内の中間支援団体の現状は、ボランティアプラザを除く中間支援 25 団体で年間 14 億円の収入、237 団体の立ち上げ支援創出、437 件の事業を実施し、雇用スタッフ総数 382 人という経済規模になり、行政との協働や団体間のネットワークも深化しています。「NPO の中間支援組織」という枠組みから、広く地域社会のなかで、様々な主体との関係を取り結び、その関係性を変えていくことで新しいイノベーションを生み出すという「公益の中間支援組織」への転換という展望を示すことができました。

今後は、報告書の配布にとどまらず、勉強会やフォーラムでの報告書内容の活用や、全国の中間支援に関わる団体に、広く活用を広報していきます。(柳井)

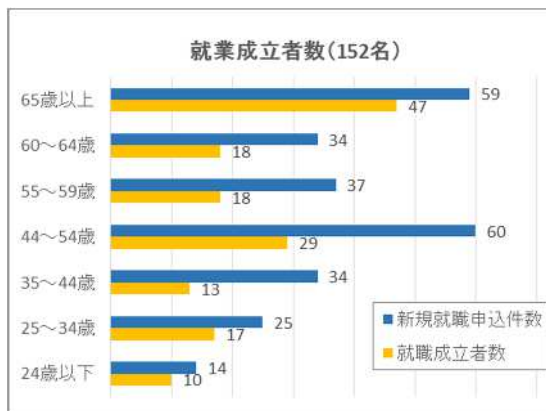
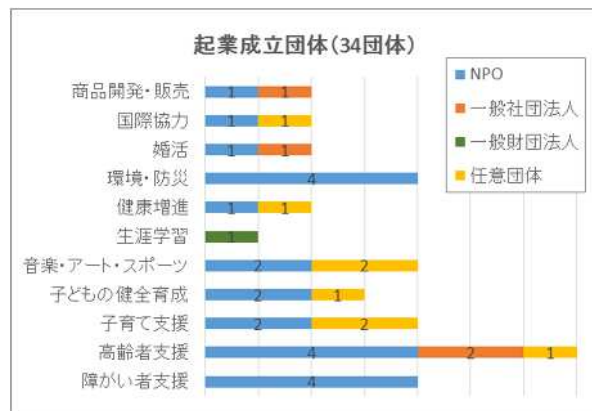
【県内中間支援組織 25 団体の全体像（一部）】



市民活動支援部 ～ 相談・講座・助成を通じて、市民の活動を支援します ～

✓ **生きがいごととサポートセンター神戸東/神戸市 N P O 認証支援事業**

事業の要である、面談による相談は 2,128 名と、例年通りの人数となりました。そのうち、起業希望者はここ 3 年、150 名前後とほぼ同数ですが、就業の相談者はリーマンショック時をピークに徐々に減少し、今年度は 263 名にとどまりました。一方で、ボランティア希望者が 25%と、例年に比べ飛躍的に増加しました。



神戸市 N P O 認証支援事業では、神戸市で新たに認証された NPO56 団体のうち、20 団体の認証設立支援を行いました。NPO 法人の設立相談で来所された相談者のうち、3 分の 1 の方々が設立に至りました。(狩野)

✓ **ハンズオン・インターンシップ**

3 年目となった本年度は、引き続き就労困難な若者を対象に、就労を目標に据えた体験型の研修を実施しました。年間を通して 9 名のインターンを受け入れ、そのうち 4 名の進路が決定しました。実習を通して、コミュニケーション能力の習得や達成できたことに自信を持つことで、就労という目標に近づくことができました。新たな取り組みとして、就労困難な若者について、社会の理解を促す冊子を作成したほか、寄付金をいただいている三菱重工業(株)神戸造船所の社員研修会で、NPO 活動の実際について講演を行いました。(山村)

✓ **全県展開事業**

丹波市地域での CB 支援活動の 2 年目として、①CB 起業相談、②起業支援講座の開催、③見学バスツアーを実施しました。

数年来の支援の大きな成果は、丹波市で初めての中間支援「NPO 法人 gift」が設立に到ったことです。

一方、豪雨・土砂被災の影響で中止となった講座もありましたが、CB 起業をめざす「実践塾」では、意欲の高い参加者が事業計画作成方法を学びました。

さらに、6 生きサバが協力して、但馬、丹波・篠山、淡路の 3 地域の CB 団体を見学するバスツアーを行い、他地域での取り組みを視察しました。バラエティに富んだ団体を見学できたことやコース設定等が高評価につながりました。(狩野)



丹波市初! 中間支援団体giftさん

✓ **市民活動サポート基金／スマイル♥テッド基金**

市民活動サポート基金では、活動スタート時を応援する小口助成金制度を新たに導入し、年 2 回の選考委員会を経て、下記団体へ合計 1,060,000 円の助成金を交付しました。また、今年度から元 CS 神戸事務局長の国枝哲男氏の遺志でいただいた寄付金で創設した「スマイル♥テッド基金」(総額 500,000 円)から助成金交付を実施しました。(狩野)

市民活動サポート基金

団体名	事業名	金額
NPO法人神戸ライフセービングクラブ	ライフセービング人材プロジェクト	200,000円
NPO法人コミュニティかりば	お困りごとサポート事業	150,000円
NPO法人フードバンク関西	食のセーフティネット事業	300,000円
Workmate	外国人が日本で生活するために必要な情報の発信事業	160,000円
アートふるKOBE	臨床美術を使用した美術工芸創作活動	50,000円

スマイル♥テッド基金

こまめ屋	野菜販売による地域活性化	100,000円
NPO法人里地里山問題研究所	篠山「猿結び米」オーナー制度推進事業	100,000円



研修講座／ネットワーク事業 ～ 人材育成や他セクターとのネットワーク構築につとめます ～

✓ NPO マネジメントスクール／社会貢献塾



笑顔と元気がいっぱいの子供たち(社会貢献塾)

18 年目の実施となった「NPO マネジメントスクール」は地元中間支援の協力を得て、神戸エリアと丹波エリアにて実施、15 名が参加しました。兵庫県立大学経営学部教授で CS 神戸の監事でもある當間克雄氏が前半の講義を担当し、後半は参加者自らが所属団体の経営計画書づくりを行いました。

またシニア層を主な対象とした「社会貢献塾」は講座、視察ツアー、グループ調査、個別相談などのプログラムで 10 日間の講座を行い、24 名が参加しました。講座終了後もワラビー、生きがい活動ステーション、まちづくりスポット神戸の各エリアでフォローアップしたことで、外国人に対する日本語ボランティアなど様々な活動へ 16 名がマッチングしました。(飛田)

✓ CSR プロジェクト

昨年度に引き続き、ネットワーク事業として「CSR プロジェクト」を実施しました。有識者、企業、NPO 等からなる研究会を組織し、CSR (Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任) からもう一步進んだ CSV (Creating Shared Value = 共通価値の創造) の現状と可能性を探りました。研究の成果をまとめた報告書を発行したほか、3 月 5 日 (木) にはフォーラムを開催、行政・企業・NPO から 41 名が参加し、関心の高さがうかがえました。(飛田)

地域活動事業部 ～ 地域密着型の事業を展開しています ～

✓ JR 住吉駅前駐輪場

神戸市の第 3 期指定管理期間の 2 年目として、市民の皆さまに快適に利用していただけるよう、以下のような取り組みをおこないました。(指定管理期間 2013/4～2017/3)

- 不正使用の低減：撤去予告札貼り付けの日数短縮と徹底などにより、回収率が 5% 程度アップしました。

	違反数	回収数	回収率
2013年度	16,045	10,627	70.3%
2014年度	16,036	11,594	75.7%

- バイクの定期待ち低減：空き台数を勘案して新規の定期販売を行い待ち台数は減少しました。
- 付加サービスの実施継続：空気入れ貸し出しサービス、スタッフによる自前修理、出張修理業者の紹介等を行いました。

結果として一時利用販売券数は昨年比 101.9% (793,000 枚) で、自転車が増、バイクは 5.6% 減となりました。定期券販売数換算値(1 ヶ月 20 日, 3 ヶ月 60 日)を加え計算した延使用台数は、3,579,000 台で昨年比 100.8% となりました。

また、トライやる・ウィークの生徒や障がい者有償ボランティアを積極的に受け入れて、駐輪場外で放置車両のチェックをする「指導業務」と周辺地域の清掃活動を一緒に行なうことで、社会参加の機会を提供しました。(柳井)



トライやる・ウィークでは世代間交流が生まれます

✓ 東灘区民センター小ホール

第 3 期指定管理期間の初年度として（指定管理期間：2014/4～2018/3）、施設の管理運営業務・貸館業務・地域文化活性化事業・自主事業を行いました。また 2013 年度管理運営に対する総合評価として神戸市から 3A の高い評価を受けました。特に地域特性に合致した事業展開は優れているとされ、今後は来館目的に対するサービスや広報に力を入れ、より地域の方々が使いやすい区民センターに改善していきます。

貸館事業の利用件数等については、ホールは 94.8%で、昨年に比べて-1.8%と下がりましたが、会議室は 74.3%（昨年比 +6.8%）、和室は 76.3%（昨年比 +2.5%）と利用率を上げることが出来ました。

2014 年度から始まった地域文化活性化事業は、地域文化の発掘・育成・支援を目指して、真の文化拠点となるような事業に取り組みました。具体的には、8 月に 5 回通して 8 名の子どもたちが能楽太鼓の体験を行い、能楽の世界を遊んでもらうことで、日本文化のすばらしさを学びました。

10 月には、HOCUS&POCUS ダンスパフォーマンス&ワークショップをダンスや身体表現を学ぶ神戸大学舞踊ゼミの学生と 3 才～14 才の参加者 20 名が「ミュージカル」と「バレエ」の 2 チームに分かれてハロウィンに合わせて面白い作品を作り上げました。

もう 1 つ子どもたちとお父さん、お母さんが親子で気兼ねなく楽しめる「幼児とパパママに贈る音楽会～★ジャズと即興音楽★～」を企画し、129 人の入場がありました。



芸術・文化をもっと身近に

地域資源を利用し、市民活力を引き出す「ひがしなだ区民カレッジ」は、新規 7 人と昨年に引き続き 5 人の市民講師による講座を延べ 89 回実施しました。

2013 年度に引き続き 11 月には魚崎児童館と協働で、「親子で防災教室」を実施し、災害時の行動に対する心構えを家族間で話し合う機会になりました。継続して、豊かで活力ある地域社会、コミュニティが創出できるように、努めます。（兵頭）

✓ まちづくりスポット神戸

商業施設の中で企業と協働運営している「まちスポ神戸」には、買い物ついでに何気なく立ち寄る方から「自分も何かしたい！」と地域活動に高い関心を持つ方まで多様な層が来館されます。

それぞれのニーズに応じて、気軽に参加できる「まちそだてサロン」、活動の担い手育成を目指す「まちそだて講座（本科）」、専門家の指導による「まちそだて講座（専科）」の 3 つの枠組みで各種の講座を実施しています。



介護予防実践への一歩、「居場所講座」



こんなに大きい野菜が収穫できました！

講座修了者が次のステップに向かえるよう、グループ立ち上げなどの相談に応じ、活動を始めたばかりのグループの「後押し」として「はじめの一步助成」を実施するなど、地域活動デビューの支援体制を整えてきました。また、子育て支援事業や、近隣に大学がたくさんあることや施設内のテナントと連携できるという「強み」を活かした事業にも取り組んでいます。

2014 年度の来館者は 9,962 名、登録会員 26 団体、ふれあいまつりの実施など当初の想定以上に多くの方々が「まちスポ神戸」に集い、行政区・世代を超えて交流が始まっています。

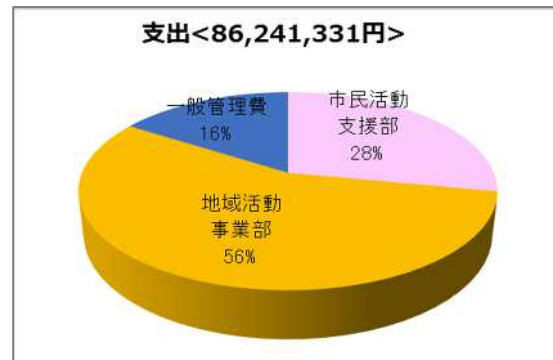
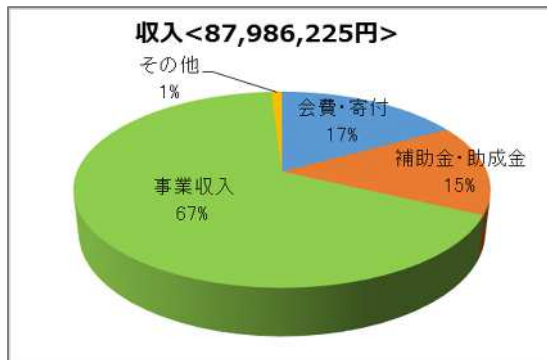
ここで出会った方々が、「お互い様」の気持ちで支えあう地域づくりの担い手として活躍できるよう、今後も応援していきます。（向山）



男性ボランティアスタッフ「イケメンズ」

2014 年度会計報告

2014 年度決算は経常収益 87,986,225 円、経常費用 86,241,331 円、当期正味財産増減額 1,744,894 円となりました。
詳細は以下の通りです。



※事業内容

■市民活動支援部

【NPO・CB 支援／就業・ボランティア支援】

生きがいごとサポートセンター神戸東、神戸市 NPO 認証支援事業、全県活性化事業、ハンズオン・インターンシップ、市民活動サポート基金

【研修・講座事業】

NPO マネジメントスクール、社会貢献塾・CB 実践講座、視察研修事業

【ネットワーク・調査事業】

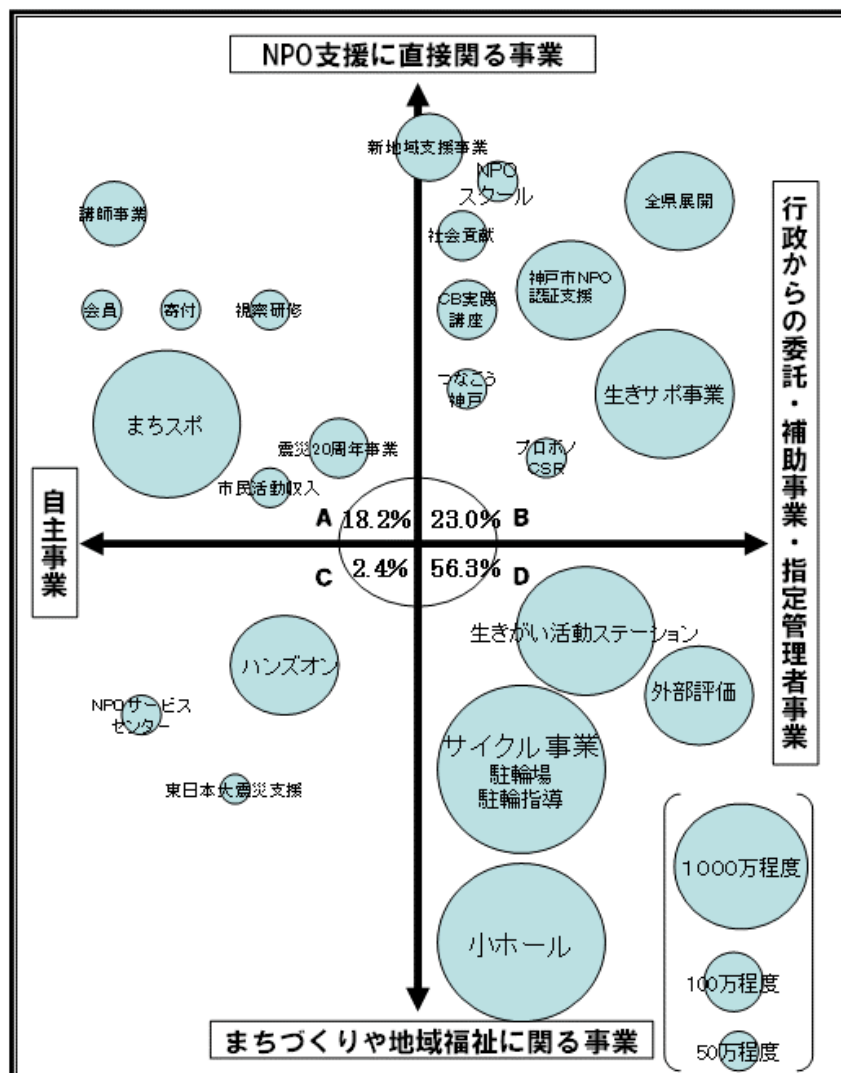
CSR プロジェクト、つながり神戸運営事業、東日本大震災復興支援、震災 20 周年検証事業

【福祉推進事業】

介護サービス情報の外部評価・公表調査、新地域支援事業

■地域活動事業部

JR 住吉駅前駐輪場、東灘区民センター小ホール、まちスポ神戸運営事業、生きがい活動ステーション



新人紹介

～ 6 名のスタッフが仲間入りしました ～

森本 泰司【生きがいごとサポートセンター全県展開事業】

全県展開事業丹波担当 CB 推進員として CS 神戸に入りました。地域の問題解決のために頑張ろうとしている方々の力に少しでもなれればと思っています。

津野 亜由未【まちづくりスポット神戸】

デイサービスでの運動指導の経験を生かし、今後は地域の人々を身体的、精神的、社会的に元気にしたい！趣味は演劇、人間の生きる力を感じられる場所がすきです。

人羅 亜矢子【東灘区民センター小ホール】

NPO 法人の設立相談に訪れたあの日から 10 年。ちょっと「ダメされた？」と思いつつ、これも運命かと前向きに受け止めております（笑）

新庄 達也【まちづくりスポット神戸】

まちスポ神戸のキャッチコピー「ここでつながる。ここからはじまる。」をお手伝いさせていただきます。

藤本 隆【総務・庶務・新地域支援事業】

私自身、NPO には研究や実践を通して携わり、失敗も喜びも経験してきました。CS 神戸での新たな出会いが楽しみです。

長井 明子【総務・庶務・介護サービス外部評価】

4 月より CS 神戸にご縁が出来ました。四十を前にして、新しい仕事に挑戦です。



会員 寄付 お礼

～ 応援いただき、ありがとうございます！ ～

【会員】

荒巻 順一、岡本 仁宏、坂本 登、佐野 末夫、立田 英雄、當間 克雄、中村 順子、長谷川 京子、金芳 外城雄、松下 忠義、足立 勝、小室 邦夫、佐藤 友美子、藤原 和男、岡島 貞雄、福嶋 正次、檜谷 實、朝山 日出夫、村上 義弘、石井 真由美、稲田 薫、大谷 敏行、遠田 豊成、森 功、上村 隆夫、加藤 正博、尾山 宗久、増金 祐次、古結 洋子、兵頭 修也、平野 久美、檜垣 忠、野々村 公子、川上 範男、佐藤 正義、深田 達夫、山本 由美子、原 祥隆、北川 浩二、西田 幸夫、蒲田 尚史、人羅 亜矢子、ヒューマンスキル研究所、婚活せわやき隊

【寄付】

柳田 さおり、太美 京、岡田 雅幸、吉岡 洋子、上村 隆夫、中村 順子、向山 良子、中山 迅一、伊藤 愛奈、飛田 敦子、大和リース（株）、テラスハウス住吉台自治会、



2015 年度の会費継続をお願いします

市民活動を共に支えてくださる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会費】

個人会費：3,000 円／年 団体会費：10,000 円／年

【振込先】

名義：NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

郵便振替 00950-2-144205

編集後記

初めてカラーとなったフロンティアはいかがでしたか？

2015 年度は神戸市全域で始まる「新地域支援事業」への様々なサポート、来年 10 月の CS 神戸 20 周年に向けた書籍出版の作業と、これまでの経験と新たなチャレンジが融合する取り組みが続きます。地域をつなぎ、サポートする CS 神戸をこれからもよろしくお願いします。（N）

認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS 神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104

TEL：078-841-0310／FAX：078-841-0312

E-MAIL：info@cskobe.com

2015 年 6 月 25 日発行 通巻 76 号

発行人：中村順子 編集人：長井明子